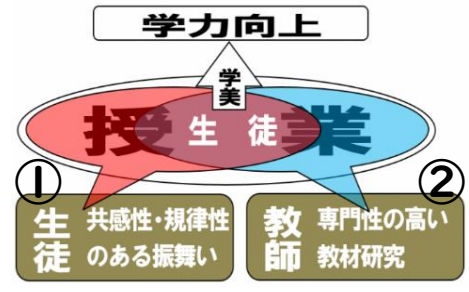


本通信では、秋田県大館市立北陽中学校へ派遣されている萩原透先生のレポートをもとに、秋田県や北陽中学校の取組をお伝えしてきました。今号は今年度の最終号として、これまでを振り返り、まとめをします。

生徒と教師が共に学びを創り上げる

- 第2号**
 - 生徒と教師が、「**学美**」というキーワードで、目指す授業像を共通理解している。
 - 生徒と教師が、他クラスの授業を参観する**学美ツアー**で、よい授業について学んでいる。
- 第7号**
 - 生徒会組織に**学習委員会**がある。生徒総会で生徒がよりよい学び方について**提案・協議**している。
 - 委員会の常時活動で、**学習がんばり表**の取組など、生徒同士で学習の仕方や様子を振り返っている。
- 第14号**
 - 「**PADカード**」を活用し、**共通の視点**を基に生徒の学びの様子を見取る。
 - 研究授業後に、教師が**生徒にインタビュー**を行い、授業について生徒から聞き取る。
 - 授業者の想定と実際の生徒の姿の**ギャップ**に焦点を当てて、研究協議を行う。



7月 学習がんばり表

<今月の学習目標>
 「話す・聞く」のふるまいを強化しよう。(6月からの継続)

【1年生の目標】	話し、発表者に目を向けて聞く 積極×	話し、発言に合った反応をする
【2年生の目標】	2回目以降の相手	発言に合った反応をする
【3年生の目標】	聞き取りやすい声量 聞く側の態度	みんなが分かるように話す(話し合いの役割をしっかりと果たす)

◎:90%以上の生徒が達成	○:89~80%	△:79~60%	×:60%未満	
日	時	教科	項目	達成
1				
2				

生徒と教師が、理想の授業を共有している。
 生徒も教師も「**どのような授業にしたいか？**」を問い続けている。

生徒の主体性を「チーム秋田」で鍛える

- 第3号**
 - 「**問いを発する子どもの育成**」を秋田県の最重点の教育課題の一つとし、県全体で取り組んでいる。
- 第13号**
 - 秋田県総合教育センターが作成した『アキタラクティブアイ』において、**児童生徒がより主体的に学ぶポイント**を示し、授業改善を進めている。
- 第6号**
 - 生徒の主体的な学びを支援するために、**単元や領域を越えて活用できる重要語句**や、**見方・考え方が明確になるような貼り物教材**や**掲示物**を作成し、指導を行っている。
 - 貼り物教材や掲示物を活用し、**生徒の思考に沿って臨機応変に授業を進めている**。
- 第8号**
 - 生徒の実態**に応じた学習内容や学習課題を設定している。
 - 「見方・考え方」「既習事項(小学校の学びも含む)」「提示資料」から**生徒の気付きや疑問を引き出し**、学習課題につなげる。
 - 振り返り**等に出てきた、生徒の新たな疑問を次時の学習につなげる**学びの連続性**を意識している。
 - 生徒の表情やつぶやき**を見逃さず、適切な教材を適切なタイミングで提示し、生徒の学びを支援する。
 - 問い返し**を工夫し、「すぐに教えない。」「生徒が自分で考えるようにする。」ことを大切にしている。
- 第12号**



教師が仕掛けて気付きや疑問を引き出し、問いを繰り返して課題解決を行っている。
自ら問いを発する子どもに成長するように、「チーム秋田」で鍛えている。



心に残った言葉

1年間、秋田の先生方と接する中で、心に残った言葉を紹介します。

- 主体性とわがままは違う。興味・関心があることだけすればよいのではない。自分たちが取り組むべき課題に挑む生徒を育てている。
- （学年主任が学級担任に）生徒に指示や押しつけをするのではなく、どう行動すればよいか、どう判断すればよいか、しっかり問い掛けていきましょう。
- （「授業がつまらない」という生徒に対して）自分たちで授業をつくれなから、教師が話す。自分たちで意見や疑問をつないで、授業をつくってあげれば、授業は楽しくなる。
- 信じていないと授業中生徒に任せられない。信じていないから教師が話してしまう状況が起こる。
- 子どもは鏡である。教師の本気度が子どもに伝わる。小手先の技術のみではいけない。

心に残った写真



1年間、たくさん写真を撮りました。一番印象に残った写真を紹介します。10月の全校合唱に向けた練習の様子です。3年生が中心となり、「地域に感謝の気持ちと元気を与える合唱」を目指しています。

しかし、生徒同士で助言し合ってもなかなか上達しません。全教員が生徒の表情や気持ち、体調を気遣いながら、目指す合唱に近づくように見守っています。機を見て、一人の教員が「○○の部分が不十分だ。」と助言しました。指摘された部分を重点的に練習し、見事な合唱に仕上がりました。生徒が、集団として「殻を破った」と感じると同時に、「啐塚同時（そつたくどうじ）」という言葉が浮かんできました。

〈「啐塚同時」とは〉

「鳥の雛が卵から出ようとなく声と母鳥が外から殻をつつのが同時である」ということから、学ぼうとする者と教え導く者の息が合って、相通じること。教え導くときには、絶好の機を逃さないことが大切である。

教師力とは、生徒の聞こえない思いを聞き、見えない気持ちを押し量り、教師が発問や支援の内容やタイミングを試行錯誤しながら、生徒に力を付けていくことだと学びました。

また、秋田の先生方から「**人間を育てている**」という**自負と誇り**を感じました。しかも、秋田県は「チーム秋田」で未来の秋田を支える「人財」を育成していると感じました。

今後、授業改善を行っていき上で、「**どのような授業にしたいか？**」を問い続けることを大切にしたいです。岡山県に帰っても、生徒や先生方に聞きたいですし、また、学校としてはどう考えているのか、研究主任の先生や校長先生にも伺いたいと思っています。答えが一つではない問題に対して、チームで対話と試行錯誤を繰り返しながら挑んでいくことで、よりよい授業づくりと学校づくりができることを学びました。



今年度は、中学校編として主に大館市立北陽中学校の取組を紹介しました。他県や他校の取組を知ることで、当たり前だと思っていたことの大切さに改めて気付かされたり、もっとできることがあるかもしれないと考えたりすることがあったのではないのでしょうか。

本通信が、各校において「やってみよう。」「これは本校でもできそうだな。」と、新たな取組が始まるヒントになれば幸いです。

本通信、「『あきたのそちから』に学ぶ 中学校編」は、今年度、16号まで発行し、各学校へ送付しました。

岡山県教育委員会義務教育課のホームページにも掲載していますので、ご覧ください。



義務教育課 ホームページ

<https://www.pref.okayama.jp/soshiki/322/>

